

Heart View [ハートビュー]

企画にあたって

佐藤宏行(東北大学病院 循環器内科)

2024年現在，残念ながら内科医は減少傾向にあり，かつて“花形”ともいわれた私たち“循環器医”は，内科系サブスペシャリティのなかでも特に志望者が徐々に少なくなっている。一方，加速化する高齢社会とともに，脳・心血管病といわれる循環器疾患をもつ患者数は年々増加傾向にある。また，わが国の国民医療費の首位を占めていることも向き合うべき一事実であり，循環器診療は今後も絶えることのない，社会的なニーズの高い分野の1つであることは自負すべきである。これらを担う医療全体のレベルアップ・業務効率化はもちろん，若手医師の育成・教育の標準化とその継続性が求められる。

現代の循環器診療は，心不全，虚血性心疾患，不整脈，構造的な心疾患(SHD)，イメージングなど，領域のなかでさらに専門が細分化されつつある。循環器医としてスキルアップをしたい若手医師としては，各専門手技や知見の習得もさることながら，“横断的”な視点を持ち，幅広い臨床経験を積むことが望まれる。逆にこれらの実体験を通じて，「1人の循環器医ではすべての循環器診療を網羅しきれない」という一定の限界も感じることで，サブスペシャリティ専門医との適切な協働・連携・チーム医療の必要性が認識できるようになる，と私は感じている。さらに，救急外来(ER)，集中治療室(ICU)，病棟，外来など，さまざまな時間軸や環境に合わせて，あらゆるシチュエーションでも“動く”ことができ，他科専門医からのコンサルテーションに応じて，円滑にコラボレーションできる循環器専門医の需要が高いと考える。

私自身も含め“骨太の循環器内科医”という理想に少しでも近付けるよう，本増刊号では，国内外の臨床最前線で活躍する新進気鋭の若手医師から「“明日から使える”Tips」を中心に執筆いただいた。目次をご覧くださいと，どの章も実臨床に即した実践的なトピックが並んでいることがきとおわかりいただけるだろう。読者の皆様がいる各地域において過不足のないエビデンスに基づいた診療が展開され，循環器医を志す若手医師のレベルアップの一助に繋がれば大変光栄である。